

	生徒の現状と課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果から、知識・技能の達成率には概ね満足できるが、思考・判断・表現については課題が多く残った。特に、自分の考えを表現する力が不十分な生徒が多い。 ・授業評価アンケートの結果や授業の様子からも、国語の内容に興味がない生徒、主体的に取り組むことが出来ない生徒が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの課題と併せて、話し合いや発表、作文など自分の考えを言葉にする課題を多く取り入れた授業を実施する。 ・日常生活の国語的疑問を導入で扱ったり、生活の中で活用できるような実践的な内容を取り入れたりすることで、国語が身近なものとして興味をもてるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートでは、8割を超える生徒が授業内容に興味をもち取り組んでいる。しかし、将来の実生活へのつながりに対して、不十分と感じている生徒や定期考査などでの文章表現に対して苦手意識をもつ生徒が一定数いる。このことから、実生活につながる課題解決型の学習課題の設定や、意見を記述し表現方法を高める指導の工夫に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な見方・考え方や多面的・多角的な視点を身に付けることで、将来の実生活にも応用できることを繰り返し伝えていく。 ・思考・判断・表現の評価機会を増やし、社会的な資料を読み取り記述する取組を設定していく。生徒の今までの固定観念がゆさぶられるような社会的な事象に関わる発問を精選し、「作業や活動する時間の確保」「将来の実生活へのつながり」に関する項目の数値の上昇を目指す。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の結果から、思考・判断・表現の観点の達成率が低い。課題に対してどのように解けば問題を解決できるかという見通しをもつことができていない。 ・昨年度と比べて、家庭学習に取り組む生徒が増えている。しかし、解法の手順を機械的に覚えているだけで、数学的な概念を意識している様子がない。根拠を明らかにした指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を提示したときに、解法の見通しを考える時間を設定する。また、いくつもの解法で解くことができる課題を準備し、グループで解法の手順を発表するような授業を行い、様々な解法があることに気付かせる。 ・学び合い活動では、解法の手順を伝えるのではなく、「なぜそのように考えるのか」という考え方に視点をおくようにと、生徒に声掛けをしていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査や授業評価アンケートの結果から、理科の学習への取組に興味のある生徒が多い。 ・理科の基礎的な知識に支えられた自分の考えをもち、自分の言葉で表現することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもち、表現する力を向上させるために、実験の考察の時間を活用し、自分の考えをまとめ、学び合いから考えを深め、意見を発表できる場面を増やしていく。また、授業内での発問を増やし、考え発信する時間を確保する。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動や器楽の活動には前向きに取り組める生徒が多い。 ・工夫する内容や感じ取ったことを発言したり書いたりする力には課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現できる語彙を増やしていくために、活動に対するフィードバックを行っていくようにする。また、考えたことを表出する方法として、動きを伴うものや言葉のリストを作り、改善を図る。

美術	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な描写力やカッターの技能に差があり、制作の進捗に差が出た。 ・材料の扱いが難しく、アイデアを作品に反映することが困難で、制作の時間が足りず完成しない生徒がいた。 ・板書と動画投影で説明していたが、一度の動画では作業を理解できない生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材の目的に応じた基礎的な技能部分について、全体指導に加えて机間指導を通じた個別指導を強化する。また、生徒の技能の実態に応じた題材を選定する。 ・ワークシートを宿題にするなどして制作時間を確保する。 ・プロジェクターを使用した動画投影に加え、classroom で配信し各自で各自でいつでも見られるようにする。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の低下や二極化の広がり、新体力テストの結果から見てとれる。一定の技能を身に付けていても、体を巧みに使い、周囲の状況を把握し、必要な技能を使用できる生徒が少ない。 ・授業評価アンケートでは、授業に意欲的に取り組もうとする生徒や授業の内容に興味や関心の高い生徒が多い。課題別学習などの学び合いの時間を有効に使い、学びを深めている様子が授業中からも伺えた。運動量を確保しつつ、学び合う時間を確保することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的教材を使用し、指示を少なくすることで、運動量の確保をする。 ・技能の定着を図る活動とコンビネーションを高める活動をつなげるために、ペアやグループ学習で課題を共有する時間を確保していく。 ・学び合いの活動やグループで協議する時間を設け、互いの考えを共有し、学びを深めるなど思考力を高めていけるようにする。
技術・家庭	<p>【技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業に取り組む生徒が多いが、忘れ物をする生徒が多い。 ・授業評価アンケートからは、もっと自分で活動したり製作したりする時間が欲しいなどが挙がっており、生徒主体で活動する時間や制作する時間を十分に確保できなかったことが課題である。 <p>【家庭】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗剤を用いた実験や観察、学び合い活動を多く取り入れた。その結果、生徒は楽しく授業に参加できていたことが授業評価アンケートから読み取ることができた。しかし「授業の内容は、興味や関心をもてるものですか」という問いに対する回答の平均値が最も低い数字となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを活用して、話し合い活動や意見を共有する時間、調べ学習、学び合いの学習活動を取り入れていく。 ・作業のフローチャートを作成し、タブレットPCで共有したり、スクリーンに写したりして、作業効率を上げ、作業時間を確保する。 <ul style="list-style-type: none"> ・2学期前半は製作の授業になるため、安全に配慮しながらも学び合いの時間を確保する。 ・生徒の興味や関心を引き出すために、授業の導入で本時の内容に関する発問を行ったり、クイズを出したりして、興味・関心を引き出していく。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートから、1割の生徒が授業に意欲的に取り組めていない。理解不足などの理由により授業に消極的になっているが、小学校から培われてきたコミュニケーション力はあるので、他者とのやり取りや課題発表では十分な力をもっている。 ・グループ活動の発表などから、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に取り組むことで、必要な力が身に付いてきていると感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に取り組むことができるように、単語テストや復習問題を行うときに、状況に応じてkahoot!の回数を増やしていく。 ・資料から情報を正確に読んだり、その情報をまとめて書いたりするときにも、個別学習と協働的な学びを組み合わせしていく。 ・オールイングリッシュで授業をすることにより、聞く力や英語の理解力を高めるだけでなく、読む・話す・書く・やり取り・自分の考えを発表する力も引き上げていく。